授業科目名・形態	災害看護学　　講義	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	小玉　光子・成田　亜紀子	実務経験の有無	有	開講期	3年後期
科目ナンバリング	N7-3007m				

【授業の主題】

日本は災害多発国である。突如発生する災害は人々の生活や健康に甚大な影響を及ぼす。災害看護学では、「災害直後から支援できる看護の基礎知識について理解すること」の条項にそって、知識と演習を通し、災害サイクル各期で看護職が果たす役割を学習する。

【到達目標】

1. 災害看護に関する基本的な知識を理解できること。
2. 災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解することができること。
3. 災害サイクル各期に応じた看護の役割を理解することができること。
4. 災害急性期の被災者のトリアージを習得できること。
5. 災害発生時、要配慮者の救護を理解することができること。
6. 災害時のメンタルヘルスについて考えることができること。

【授業計画・内容】

1. 災害時の保健医療とは　(小玉)
2. 災害保健医療の理解　(小玉)
3. 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践、演習含む　(成田・小玉)
4. 災害急性期の看護活動（災害に関連した特殊な医療・看護実践）演習含む　(成田・小玉)
5. 災害急性期の看護活動（災害時特有の疾病）机上演習を含む　(成田・小玉)
6. 慢性期の災害保健医療と看護実践　(小玉)
7. 要配慮者への看護　(小玉)
8. 災害時のメンタルヘルス　(小玉)

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行うので主体的には授業に参加すること。
受講学生が多い場合は、トリアージ演習を第3回目と4回目に分けて実施する。
5回目には机上演習を含む授業を行う。

【事前・事後学習】

講義内容に関する事前学習を毎回2時間以上行うこと。講義内容を踏まえて復習も毎回2時間以上行うこと。

【主な関連する科目】

救急医療と看護、看護倫理、基礎看護学、成人看護学、小児看護学、老年看護学、在宅看護学、精神看護学、カウンセリング、看護コミュニケーション、公衆衛生学、感染と免疫、国際看護活動論等、看護学領域全体

【教科書等】

新体系看護学全書　看護の統合と実践②　災害看護学　メヂカルフレンド社

【参考文献】

災害看護学　心得ておきたい基本的な知識　小原真理子監修　南山堂
災害看護学　看護の専門知識を統合して実践につなげる　酒井明子編集　南江堂

【成績評価方法】

筆記試験（90%）、講義および演習の受講態度（10 %）等を総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

創傷を管理する認定看護師および管理者として患者や家族への対応の経験、さらには、救急看護認定看護師として、あらゆる救急傷病者への対応力を身に付けた高度救命救急センターでの経験を授業に活かす。発災直後の対応から災害サイクル全般において、多職種との連携の必要性を説き、人々の生命や健康を守ることの重要性を学んでいく。

【学生へのメッセージ】

常日頃から災害に関する情報に関心を持ち続けましょう。災害医療の基礎を知っているか否かは、被災者の命に直結すると考えましょう。